

普及活動情勢報告（令和4年3月分）

須崎農業振興センター高南農業改良普及所

オンラインで農福連携フォーラムを開催 ～四万十町農福連携推進協議会主催～



フォーラムの様子

3月3日、窪川四万十会館で四万十町農福連携フォーラムを開催し、普及所は事務局として開催準備や当日の運営を担いました。

コロナ禍で基調講演と一般参加はオンラインでの開催となり、協議会の関係者のみ会場参加とし、全体で40名程の参加がありました。

事例発表は、町内の就労継続支援事業所のサービス管理者からニラの調製作業など農福連携の事例が紹介されました。

基調講演は山陽学園大学の福祉分野の助教から、「障害の正しい理解や農福双方の理解が大事」と実践を踏まえたご助言をいただきました。

また、出席者からは、今後の農福連携の進め方を考えるよい機会になったとの声がありました。

普及所はこれからも、関係機関と協力し、四万十町の農福の連携を支援していきます。

誘引と合わせた剪定で減収せずに低樹高化 ～ユズ研究会剪定講習会～



講習会で説明する普及指導員

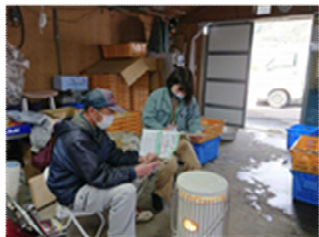
3月4日、四万十町下呉地で窪川町ユズ研究会22名が参加する中、誘引と合わせた剪定実技講習を行いました。

主枝や亜主枝が乱立し下層に結果枝が少ない高樹は切りすぎたり、剪定だけでは収量が激減する危険性が高いですが、誘引を行った後剪定を行うと、残せる枝が増加するものの切除量を減らすことができます。

参加者からは、「誘引は幼木の時だけ行うと考えていたので非常に参考になった」、「誘引を行うことで結果枝を残せるのは良い。自分のほ場でもやりたい」等の意見が聞かれました。

コロナ禍で今年度初めて部会員が集まったこともあり、活発に意見や情報の交換がなされるなど充実した講習会となりました。

稼げる農業を ～農業改良普及活動についての農家のヒアリング～



今年度の普及活動内容等を報告

今年度の第2回高南地区農業改良普及推進協議会は、開催予定日が新型コロナウイルス感染症のまん延防止等重点措置の適用期間となったため中止としました。それに代わり、2月24日、3月4日、農家委員の方々には個別に訪問し、今年度の普及活動についての報告と意見を聴取しました。

委員からは「後継者確保のためには農業がもっと稼げるようになり、若者が自主的に農業を職業として選択するようになることが必要」、「スマート農業でいろいろな作業の機械化が進んでも、生産者が作物の栽培に興味を失うことがないようにすることが大切」等の意見をいただきました。

普及所では、これらのご意見を今後の活動に活かし、地域で暮らし稼げる農業の確立に取り組みます。

出荷規格の再確認！ ～アスパラガス部会出荷目慣らし会～



目慣らし会の様子

3月7日、JA四万十アスパラガス部会において、出荷目慣らし会が開催され、6名の参加がありました。

目慣らし会では、基本的な出荷規格に関する説明が行われ、実際に商品を見ながらの意見交換が行われたほか、普及所からは、3月以降の栽培管理で重要となる立茎や灌水・肥培管理について説明を行いました。立茎については、生産者同士で立てる茎の太さについて活発な意見交換がされており、今後の管理に向け有意義な目慣らし会となりました。

普及所は今後も、関係機関と連携し、アスパラガスの生産振興に向け取り組んでいきます。

ほ場準備に向けて ～シシトウ栽培講習会～



栽培講習会の様子

3月9日、JA高知県大正支所でJA高知県大正シシトウ部会を対象にシシトウの栽培講習会を開催し、10名の参加がありました。

普及所からは、土壌分析の結果を基に、作物に必要な養分のうち塩基類の働きについて詳しく説明しました。

参加者からは、「カリウムの働きで寒さに対する抵抗力をつけるとはどういうことか」や「他の成分の働きについても知りたい」などの意見が出されました。

普及所は、今後もJA等関係機関と協力し、シシトウ栽培の指導をしていきます。